

Title	日本映画の商業価値を決める要因-プロデューサーの役割を中心に-
Sub Title	
Author	李珮寧(Rii, Peiniin) 鈴木貞彦
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1398号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1398

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1398

学生氏名

李 珮寧

主査 鈴木 貞彦

副査 小野桂之介

山根 節

所属

鈴木 貞彦 研究室

日本映画の商業価値を決める要因 —プロデューサーの役割を中心に—

本研究では、日本映画を興行的な成果に結び付けていくために、映画の制作を管理していく過程に、責任者であるプロデューサーとして、どのような意思決定が有効なのかを検証しようとした。映画制作は多額の投資資本が必要で、そして、一発勝負で失敗と成功の両極差が極めて大きい。この一見サンプルみたい「感」と「運」によって、成功にさせられる投資には、具体的で、実行性のある、説明することもできる理論があるのではないかを検証しようとした。

プロデューサーが実行できる興行的成果の向上に関する提案を出せるために、次の研究が行われた。まず、映画ビジネスの本質である商業性と文化性を分析し、次に、映画制作プロセスとプロデューサーの役割を明確にし、さらに、今まで取ってきた経営方法とその問題点を分析し、最後に、興行で成功する映画の条件に関する観点から分析が行われる。この分析に基づいて、日本映画を制作する際に、プロデューサーが決定できる意思決定と興行収入との関連性に関するファクターを整理しようとした。

今日、新しいメディアの発展とシネマコンプレックスの拡大が進んでいる。これを機会と捉える行動が必要である。そのために、映画を文化財という質に依存するのではなく、商業的にも自立できることが肝要である。